

## 第2分科会 「救急・災害時医療」

～安心して暮らせる地域 今求められる救急・災害時医療とは？～

運営委員（敬称略）高橋美明（東京の保健衛生医療の充実を求める会）

川辺淳二（山口県医労連）

茂原宗一（長野県厚生連労働組合）

助言者 高松道生（鹿教湯温泉三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院副院長）

当分科会は、一昨年から2年間、第1分科会の地域医療に統合したため窮屈な運営を余儀なくされました。この間東日本大震災が起こり、救急・災害時医療の課題は医療研全体の課題や取り組みとなったものの、過去30回近く継続された当分科会の継続が遮断されました。今回は分科会復活の経過と到達点を整理しながら「職場と地域」を視点に、「安心して暮らせる地域、今、求められる救急・災害時医療とは？」をテーマに分科会を運営したいと思います。

最初に救急医療をめぐる全国的情勢と救急医療の本質論を問題提起します。

救急医療を実施している各職場から、さまざまな事情により「患者の受け入れ困難（不応需）」は全国で共通した課題となっています。その「さまざまな事情」を出し合い、その最善の解決策や選択肢を論議の中で探ろうと考えています。地域医療や院内の患者受け入れ体制等の具体的解決策が求められています。貴方の一言が患者さんの命を救う契機になることもありえます。日本は2025年に高齢化のピークを迎えます。医療と介護、施設ケアと在宅ケア、看取りと救急医療の課題も論議しなければなりません。地域・家族・介護施設・医療機関に共通する何かを持っていないと、不満や不信（不審）がおきかねません。往診や訪問看護の体制が機能している地域や家庭では救急医療への負担が大きく軽減されています。全国各地の取り組みを交流したいと考えています。東日本大震災の教訓をふまえ、各医療機関と地域における災害時医療の現状と課題を明らかにします。災害拠点病院と拠点外病院のそれぞれの役割について地域と院内から考えます。

### レポートの募集テーマ

- ・救急医療、患者受け入れ「困難」事例について
- ・在宅・訪問看護や介護、看取りと救急医療について
- ・救急医療関連職場のシステム・労働実態について
- ・東日本大震災における災害派遣医療の実態と課題
- ・地元青森県の救急・災害時医療の現状と課題について